

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境					0.40		-		3.8
1 音環境				3.8	0.20		-		3.8
1.1 室内騒音レベル		客席の騒音レベル30dB以下		5.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00		-		
2 界壁遮音性能					-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音				3.0	0.20		-		
2 温熱環境				3.9	0.47		-		3.9
2.1 室温制御				3.6	0.50		-		
1 室温		冬期22°C、夏期26°Cの設備容量を確保		4.0	0.38		-		
2 外皮性能		窓システム:SC0.72、U=1.8W/m ² K、外壁:U=0.987W/m ² K、屋根:U=0.760W/m ² K、外床:U=0.987W/m ² K		4.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-		
2.3 空調方式		床吹き出し空調方式を採用		5.0	0.30		-		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境				3.7	0.33		-		3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.50		-		
2 自然換気性能					-		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙でかつ、屋外に喫煙コーナーを設けていない		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		3.5
1 機能性				3.6	0.40		-		3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-		
1 広さ感・景観					-		-		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確で内装計画にも反映		5.0	1.00		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.6	0.30		-		3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.4	0.20		-		
1 空調・換気設備		空調・換気設備の系統を区分し重要度・負荷容量に応じた運転が可能		4.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具の採用、配管系統を区分、雨水利用、緊急時用蛇口の設置		5.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電設備設置、電源設備等の地下空間への設置を回避、電源車の接続盤の設置		4.0	0.20		-		

	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器は地上へ設置、防災無線の設置、無停電装置の計画	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり				-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.1以上0.3未満	4.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		県産材の活用、歩道状空地の整備、施設機能の提供、中間領域の形成、夜間照明の設置、設計プロセスに建物利用者が参加	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化				5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1 節水		節水コマ、自動水栓、省水型機器を主要水栓の過半に採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水を屋外散水に利用	4.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材(屋根断熱層)	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上とし躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場を確保、管理用・荷捌き用車両の駐車施設を確保、駐車場への導入路を複数計画	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.50	-	-	
	2	振動		3.0	0.50	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	

3.3 光害の抑制		防犯に適した照明を検討し街作りへ配慮、広告物照明は発光部分を点滅させないことで光の性質に配慮	4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-